

2021年度 大分大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは大分大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、大分県立病院皮膚科、別府医療センター病院皮膚科・皮膚腫瘍科を研修連携施設として、また、大分市医師会立アルメイダ病院、大分健生病院、新生会高田中央病院、札幌皮膚病理診断科を研修準連携施設に加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目Jを参照のこと)状況により準連携施設を追加設置する。準連携施設として追加設置可能な病院は国東市民病院、津久見市民病院である。

C. 研修体制：

研修基幹施設：大分大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：波多野豊（診療科長）

専門領域：アトピー性皮膚炎

アレルギー性皮膚疾患、円形脱毛症

指導医：石川一志 専門領域：皮膚外科手術、皮膚腫瘍

指導医：生野知子 専門領域：皮膚外科手術、皮膚腫瘍

指導医：後藤瑞生 専門領域：皮膚科一般

指導医：梅木真由子 専門領域：皮膚科一般、皮膚外科手術、皮膚腫瘍

施設特徴：専門外来として、腫瘍外来、アトピー性皮膚炎・円形脱毛症外来、褥瘡外来を設けており、外来患者数は1日平均51名であり、豊富な経験を積むことが可能。研究の面では、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

施設特徴：大分県の皮膚癌治療センターの一つとなっており，外来手術を除いた年間手術件数は，150 件前後である。

研修連携施設：大分県立病院皮膚科

所在地：大分県大分市豊饒 476

プログラム連携施設担当者（指導医）：竹尾直子（診療部長）

研修連携施設：別府医療センター

所在地：大分県別府市内竈 1473

プログラム連携施設担当者（指導医）：甲斐宜貴（医長）

研修準連携施設：大分医師会立アルメイダ病院

所在地：大分県大分市宮崎 1315

研修準連携施設：大分健生病院

所在地：大分県大分市古ヶ鶴 1 丁目 1-15

研修準連携施設：新生会高田中央病院

所在地：大分県豊後高田市新地 1176 番地 1

研修準連携施設：札幌皮膚病理診断科

所在地：札幌市北区北 21 条西 4 丁目 2-25

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者，プログラム連携施設担当者，指導医，他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は，専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：波多野豊（大分大学医学部皮膚科長・教授）

委員：後藤瑞生（大分大学医学部皮膚科講師）

：石川一志（大分大学医学部皮膚科講師）

：生野知子（大分大学医学部皮膚科助教）

- : 梅木真由子 (大分大学医学部皮膚科助教)
- : 小出法子 (大分大学医学部附属病院皮膚科外来専任看護師)
- : 竹尾直子 (大分県立病院皮膚科部長)
- : 甲斐宜貴 (別府医療センター皮膚科医長)

前年度診療実績：

	皮膚科		局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年 間手術数	指導医数
	1日平均外 来患者数	1日平均入 院患者数			
大分大学	54人	17人	738件	56件	5人
大分県立病院	45人	10人	430件	4件	1人
別府医療センター	38人	12人	628件	38件	1人
合計	137人	39人	1796件	98件	7人

D. 募集定員： 3 人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，面接により決定（大分大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，応募方法については，応募申請書を大分大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし，履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

大分大学医学部附属病院皮膚科
後藤 瑞生(医局長)

TEL：097-586-5882

FAX：097-586-5889

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されてい

る。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 大分大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも1年間の研修を行う。
2. 大分県立病院皮膚科では，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践，病診連携を習得し，大分大学医学部皮膚科の研修を補完する。別府医療センター病院皮膚科・皮膚腫瘍科では，主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法，化学療法，終末期医療を習得する。これらの連携研修施設のいずれかで，少なくとも1年の研修を行う。
3. 大分医師会立アルメイダ病院皮膚科では，皮膚感染症や皮膚創傷などの急性期疾患を中心に都市部の地域医療の最前線での皮膚科医療を研修する。大分健生病院皮膚科では，都市部の地域医療を主に慢性期の皮膚疾患を対象に研修可能である。新生会高田中央病院皮膚科では，郡部での地域医療を周辺の介護施設などと連携して研修可能である。札幌皮膚病理診断科では，日本を代表する皮膚病理医の指導の下，皮膚病理診断の技量を集中的に修得することが可能である。専攻医の希望に応じて，これらの準連携病院での研修を計画する。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹

b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	基幹
d	基幹	連携	連携	準連携	基幹
e	基幹	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
f	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

- a : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。
- b : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c : 研修連携施設から研修を開始するコース。
- d : 研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。
- e : 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- f : 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 大分学医学部皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来		外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 回診 カンファ レンス	病棟 皮膚病理 実習 ope カン ファ	病棟 褥瘡回診	病棟	病棟 手術		

2) 連携施設

大分県立病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大分皮膚科医会等の症例検討会に月 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回程度筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	外来 病棟	カンファレンス 褥瘡回診 病棟	外来 病棟	手術	外来 病棟回診	宿直 [※]	

※宿直は 1 回／月を予定

別府医療センター皮膚科・皮膚腫瘍科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来 病棟	呼出し	呼出し
午後	褥瘡回診 手術	病棟 カンファレンス レクチャー	手術 病棟	病棟 (レクチャー) 手術	病棟 レクチャー	呼出し	呼出し

3) 準連携施設

地域医療を担う重要な病院であり、より日常的な皮膚疾患の診療を、より独立した形で行う研修が可能である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に行う選択することが出来る。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。また、研修進捗状況や専攻医の希望に沿って、より専門的な研修の場を提供出来るように、随意、研修施設を整備する。

大分医師会立アルメイダ病院皮膚科：

皮膚科急性期疾患、熱傷、母斑を中心にその治療法、管理法、レーザー治療法を習得する。この期間は大分大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	病棟	病棟	外来		
午後	カンファ レンス	病棟 手術	病棟 手術	病棟 レーザー	病棟 手術		

大分健生病院皮膚科：

地域医療の第一線の病院の勤務医として、頻度の高い疾病の診断、治療法や処置、手術法を習得し、地域医療を実践する。大分大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に月1回程度参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来 病棟	病棟 ^{*1}	
午後	病棟 手術	褥瘡回診	往診	病棟	病棟 往診 ^{*2}		

* 1 : 土曜日の勤務は月 2 回

* 2 : 金曜日午後の往診は月 1 回のみ

新生会高田中央病院皮膚科 :

地域医療の第一線の病院の勤務医として、頻度の高い疾病の診断、治療法や処置、手術法を習得し、地域医療を実践する。大分大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に月 1 回程度参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	老健施設 往診 手術* 1	外来	外来	外来 病棟	病棟	
午後	病棟 外来	褥瘡回診 病棟	病棟 外来		病棟 外来		

* 1 : 隔週

札幌皮膚病理診断科 :

皮膚病理組織診断の訓練を行う。必要に応じて、病理検査依頼施設を含む近隣の皮膚科医と連携して、病理学的所見と臨床情報とを融合させた診断能力向上のための研鑽を積む。皮膚科や皮膚病理関連の学会やセミナー等にも参加する。札幌皮膚病理診断科での指導担当者（理事長・院長）は、大分大学医学部出身で大分大学皮膚科や別府医療センター皮膚科で研修し学位を取得後、札幌皮膚病理診断科で研鑽を積んだ皮膚科専門医である。従って、皮膚病理学を修得しつつ大分大学皮膚科及び大分大学研修プログラムと連携して皮膚科医としてのキャリアを形成する上で最適の環境である。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日

午前	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断		
午後	病理診断	病理診断	カンファ レンス	病理診断	病理診断		

4) 大学院(臨床)

基本的に大学病院にて大学院講義出席，臨床研究，論文作成等の時間を確保しつつ1)と同様にフルタイムで研修する。

5) 大学院(研究)

皮膚科及び皮膚科以外の臨床教室，基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間，大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に大分大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大分地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するEラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある生じた場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。
給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問
い合わせる事。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2020年12月1日
大分大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
波多野 豊